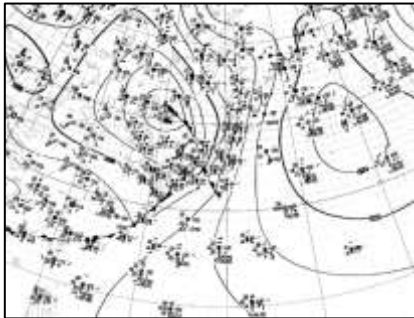


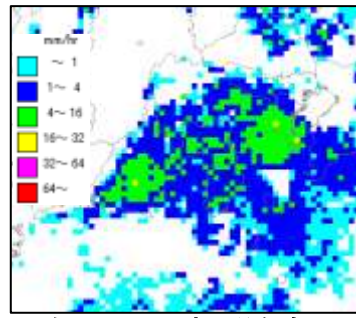
1990年 6月9日～11日 日本海低気圧

1. 気象経過

9日9時には日本海に閉塞過程に入った低気圧があり、閉塞前線が中心から若狭湾付近までのびていた。閉塞点から温暖前線が東海沖、寒冷前線が日向灘から南西諸島へのびていた。一方日本の東海上には高気圧が張り出しており、低気圧とそれに伴う前線は北北東進していた。昼過ぎには、温暖前線が県内を通過したが、風が強く、山地まで一気に南風へと変わり気温も上昇した。局地的な前線は発生しなかったが、南北で等圧線が混んだ状況の中、西日本で昇温などにより低気圧が発生することで、気圧場に変化が生じ、東西に気圧の谷や尾根が発生した。このため伊勢湾から遠州灘付近では低気圧が発生し、遠州南では局地的に積乱雲が発達した。局地的な前線の発生と異なり、遠州の強い風により、雨雲が湧きだす付近からにんじん状に広がっている。低気圧は次々と発生、東進しており、暫く同じ地域で強雨が続いた。



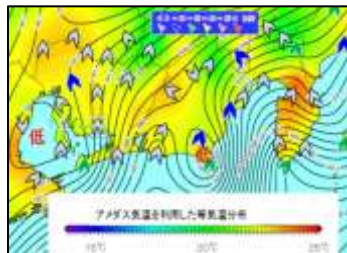
1990年6月9日9時地上天気図



1990年6月9日21時29分気象レーダー

2. 大雨の原因、特徴

日本海低気圧の場合、伊勢湾から静岡県沿岸部に局地的に低気圧が発生し、暖かく湿った気塊を急激に上昇させて、顕著な大雨となる場合がある。この時、四国や瀬戸内海沿岸部で低気圧が発生する機会が多いという知見があるが、今回も同様であった。9日21時浜松(防衛省)高度1500m付近では、南西の風、風速21m/s、相当温位*345Kであった。遠州南沿岸部で発生、発達した雨雲は、駿河湾で水蒸気を補給して再発達し、東部にも大雨をもたらせた。気図(等圧線は0.2hPa毎)
*相当温位: ある高さの空気塊のエネルギーを同じ条件下(1000hPa気圧面)で比較するため換算したもの。暖候期の高度1500m付近の相当温位の目安としては、330Kを越えると短時間強雨の可能性が高まり、340Kを越えると大規模な災害が発生するような大雨に警戒が必要となってくる。単位は絶対温度(K:ケルビン)



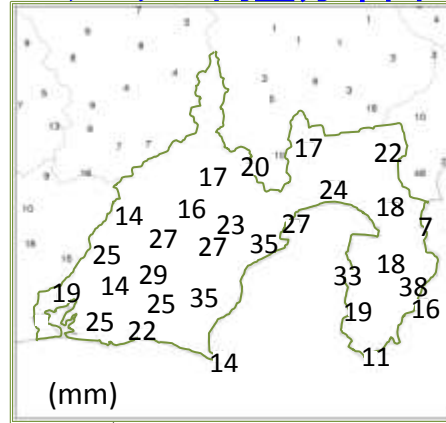
1990年6月9日20時 局地天

3. 被害概要

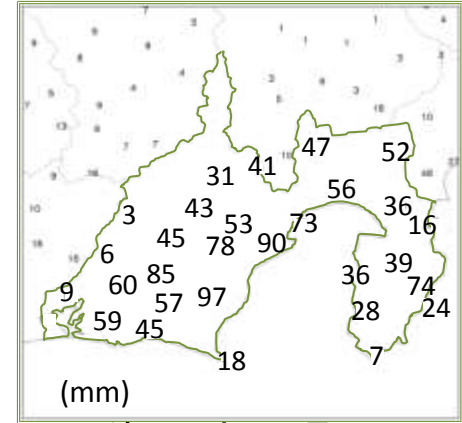
	床上浸水 (棟)	床下浸水 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	一部損壊 (棟)	死者 (人)	重傷者 (人)	軽傷者 (人)	家財 (万円)	道路 (万円)	橋脚 (万円)	河川 (万円)	砂防 (万円)	鉄道 (万円)
全県	23	370	0	0	0	0	0	0	0	1	52	2	112	2
中部	8	182	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西部	1	58	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東部	14	130	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伊豆	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

被害数は、静岡県 平成2年における災害の状況による

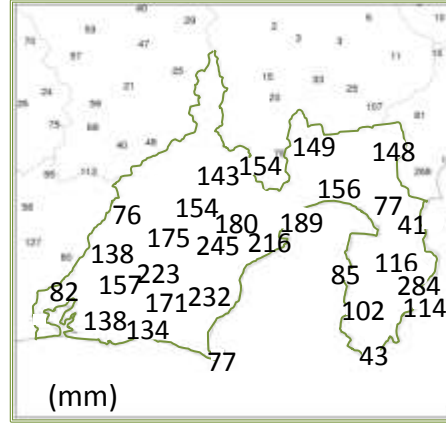
4. アメダス雨量分布図



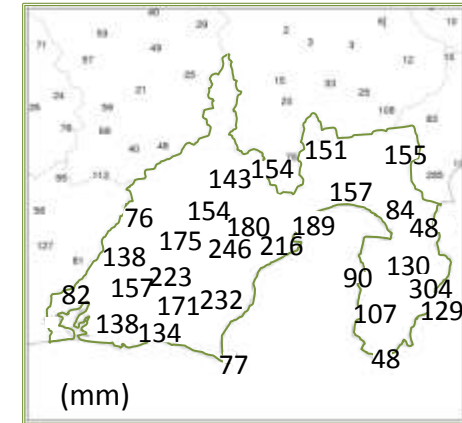
アメダス1時間雨量(正時毎)
6月9日～11日における最大値



アメダス3時間雨量
6月9日20時～22時

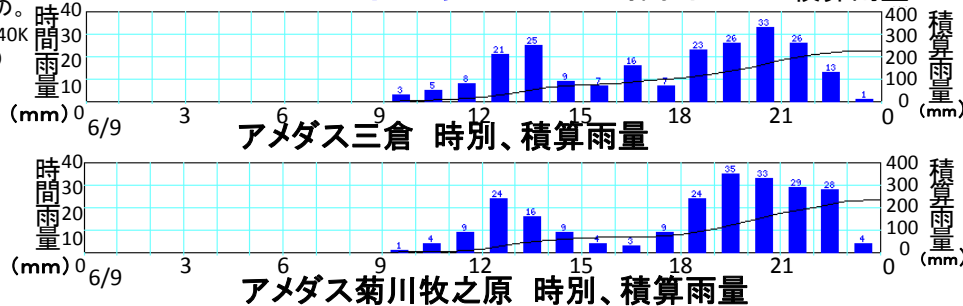


アメダス日雨量
6月9日



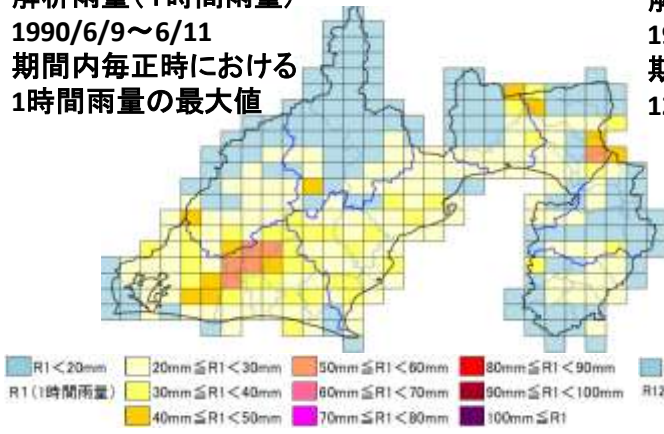
アメダス3日間雨量
6月9日～11日

5. アメダス雨量時系列変化図

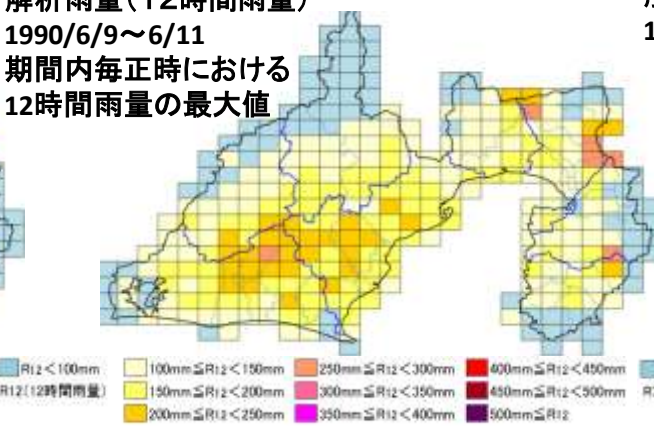


6. 解析雨量分布図

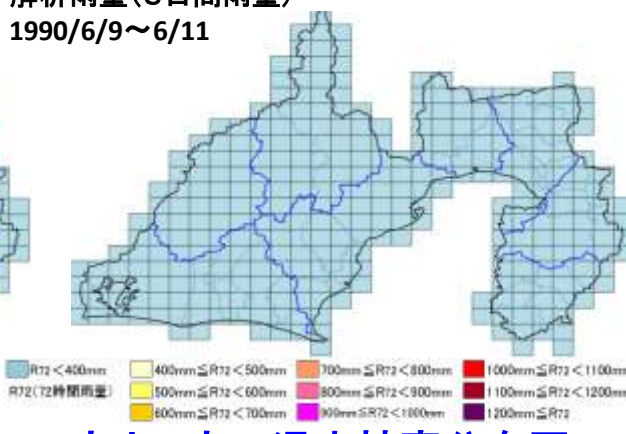
解析雨量(1時間雨量)
1990/6/9~6/11
期間内毎正時における
1時間雨量の最大値



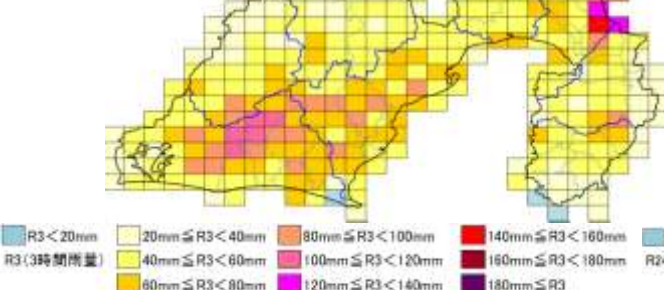
解析雨量(12時間雨量)
1990/6/9~6/11
期間内毎正時における
12時間雨量の最大値



解析雨量(3日間雨量)
1990/6/9~6/11



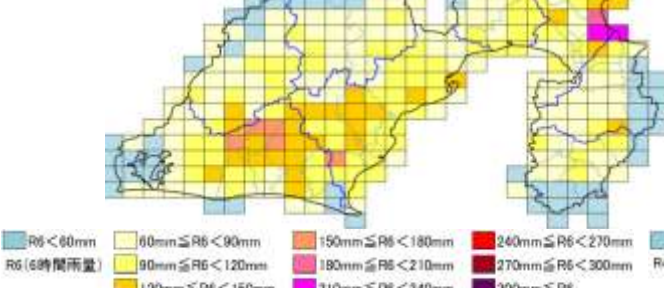
解析雨量(3時間雨量)
1990/6/9~6/11
期間内毎正時における
3時間雨量の最大値



解析雨量(24時間雨量)
1990/6/9~6/11
期間内毎正時における
24時間雨量の最大値



解析雨量(6時間雨量)
1990/6/9~6/11
期間内毎正時における
6時間雨量の最大値



解析雨量(2日間雨量)
1990/6/9~6/10



7. 床上、床下浸水被害分布図 (市町毎)



被害数は、静岡県 平成2年における災害の状況による

解析雨量と浸水害分布図からわかる大雨の特徴

遠州南と富士山南東で大雨となった。雨雲分布としては、遠州南で発生した積乱雲が上空の風により北東方向に流され、駿河湾で再発達したためであるが、局地的な低気圧の発生では、中部も含めた広域で強雨となる可能性があり(類似例2005年7月9日)、警戒が必要である。